

# 犯した罪と向き合い

H・O 鳶職（24歳）

平成27年のある月、何も関係ない女性の命を奪うという人として一番してはいけないことをしてしまいました。

私は会社が隣町にあったため、毎日車で通勤をしていました。その日も一日の作業が終わり、車で会社から帰宅する途中でした。この日はいつもの時間帯より早く仕事を終え、いつも走り慣れた道を運転している時でした。

ふと、たばこが吸いたくなり、いつも置いてある場所を手探りで探しました。前方の信号機が青色を表示しているのを一旦確認した後、「この信号が赤色に変わると、返事があったので、急いで救急車を手配する」とも、警察の方にも「人を撥ねてしまったのですが」と

通報をしました。

その後、救急車とパトカーが到着し、被害者の方は病院に搬送されるとともに、私は現場検証に立ち会い、後日詳しく事情聴取を受けることになりました。その日は、警察の方に「すぐに病院に行ったほうがいい」と

言われ、すぐに病院に向かいました。病院に着くと、すぐ被害者のご家族に謝罪と安否の確認をした後、「今は手術を行っていて、とても危険な状態だ」と説明されました。とにかく何とか助かって欲しいと心から願いました。

しかし、しばらくして、被害者の方が亡くなったという知らせを聞かされ、頭の中が一瞬、真っ白になりました。翌日、親と一緒に被害者のご自宅へお伺いし、謝罪とお焼香をさせてもらったり、通夜・葬儀にも参加させてもらいました。

被害者ご遺族の自宅にお伺いした際や葬儀に参加し

た際、被害者の方のお嬢様がずっと泣かれていたこと、ご遺族の方の顔や言葉を聞き、「自分は人の命を奪うという取り返しのつかない事をしてしまった」という罪悪感でいっぱいになりました。

その後も月命日などで被害者ご遺族の自宅に謝罪とお焼香にお伺いしていましたが、自分は親の後で謝罪をしたり、ご遺族の方に電話をしてもうらなど親の後に隠れるような事をしてしまいました。

その後、裁判が行われて、私は過失運転致死罪で禁錮2年の実刑判決を受け、私は市原刑務所で日々反省の時間を過ごしています。私は受刑生活において、色々なことを学びました。私が命を奪ってしまったせいで、被害者のご遺族の方や周りの人達の時間や、将来の希望をも奪ってしまったこと、心に深い悲しみとショックを与えてしまったこと、本

当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

しかし、私はまだきちんとした謝罪ができていません。心から反省し、私が犯した罪ときちんと向き合い、二度と同じ過ちを犯さないことを心に誓い、誠意を尽くした謝罪をし、行動していきます。

どんなことをしても時間は戻りませんし、亡くなった人を生き返らせることもできません。だからこそ、私はその真実から逃げることなく、きちんと向き合い背負って、一日一日を大切に過ごし、生涯を懸けて真の償いとは何かを考えていくと思います。

「贖いの日々」第53集より  
抜粋

転載・二次使用を禁止します。